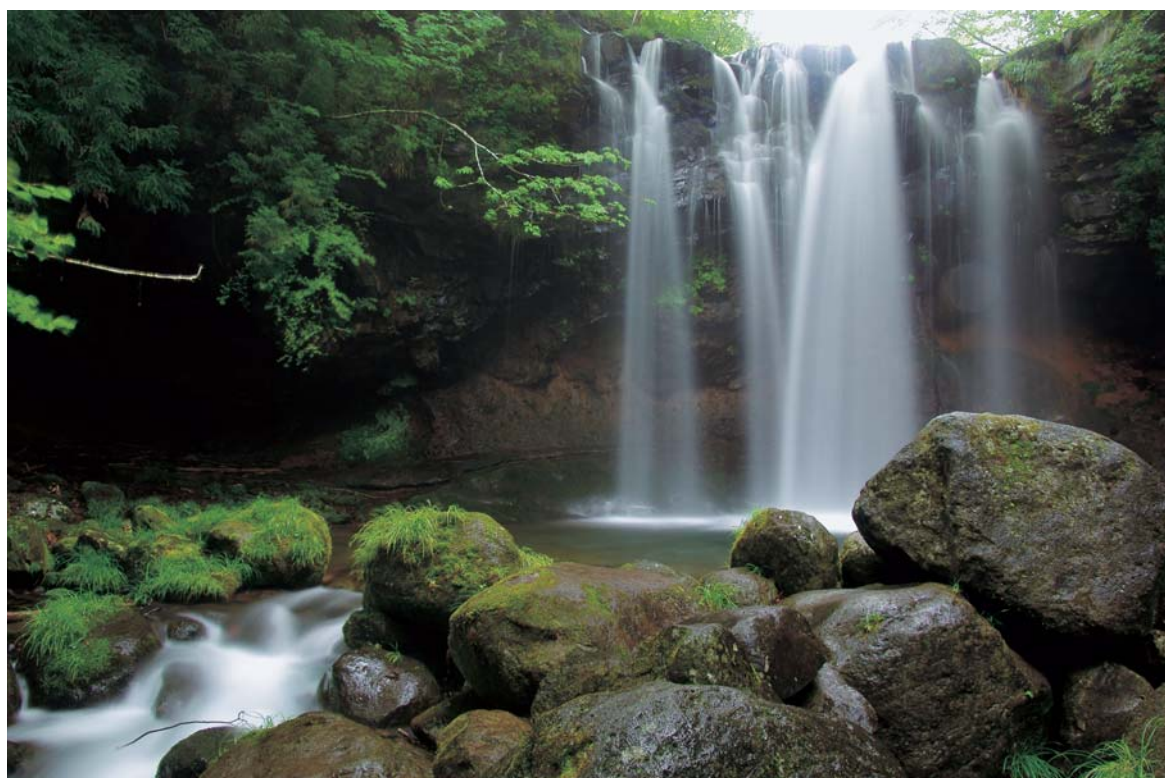




獨協医科大学精神神経医学教室 同 門 会 誌



第 7 号
2015

目 次

1. 同門会会長挨拶	黒田仁一	1
2. 下野の国に来て早や12年 ― renovationと失ったもの ―	下田和孝	2
3. 第7号・特集「私のモットー」		4
	下田和孝	
	齋藤 聡	
	駒橋 徹	
	佐藤勇人	
	北原亜加利	
4. 平成26年 外来統計および入院統計		12
	外来統計 岡安寛明	
	入院統計 石川高明	
5. 教室便り 人事往来		14
	2015年1月現在の講座スタッフ	14
	新入局員挨拶 加藤征樹 篠崎将貴	15
6. 新博士誕生 青木顕子 宋 大光		17
7. 新精神保健指定医誕生 藤平明広		19
8. ～獨協医科大学・新潟大学対抗戦レポート～	石川高明	20
9. 写真で見る講座・大学の動き		21
10. 平成26年度獨協医科大学精神神経科教室同門会総会次第議事録		31
11. 2014年の講座業績		32
12. 編集後記		39

巻頭言

獨協医科大学精神神経医学教室同門会 会長

黒 田 仁 一

猛暑日の連続記録をまた更新しましたという声がテレビから聞こえてきます。たいへん暑い日が続いていますが、会員の皆様にはいかがお過ごしでしょうか。暑い場所といえば埼玉県熊谷市が全国的に有名ですが、最近は群馬県の館林市がそれを上回ることが多いようです。というわけで館林市に隣接する私の郷里佐野市もしばしば高温ランキングの上位に顔を出すようになりました。この傾向は年々エスカレートしていくのでしょうか、心配になります。

さて平成26年度の同門会総会は12月6日宇都宮東武ホテルグランデにて開催されました。今回の特別講演ですが、厚労省から次々に出される診療報酬の改定。急性期治療に厚くし、社会復帰、地域医療を促進していくという理念はもっともと思うものの、民間病院の経営にあたる会員の皆さんとしては今後の病院運営の方向性について参考となる話が聞きたいという要望が寄せられました。そこで、桶狭間病院藤田こころケアセンターの理事長、院長でいらっしゃる、藤田潔先生をお招きし、「精神科病院の今後の展望」というタイトルでご講演をしていただきました。

恒例の宮坂賞は渡邊崇講師が受賞しました。受賞理由は、抗うつ薬の臨床薬理学的研究において後進の育成に顕著な貢献をみとめたというものです。今後もお自身の研究、後進の指導になおいっそう活躍されることを期待しております。

ところでわたくしのことになりますが、公的病院の医師不足が喧伝されるようになって久しく、わたくしが院長を務める病院も深刻な状態です。下田教授の伝手を頼りに、教授も同行していただき、県の担当者とともにいくつかの大学を訪問し、求人をお願いしているところです。まだまだ暑い日が続きます。会員の皆様にはご自愛なされて、ますますのご活躍祈念いたしております。

平成27年8月8日

下野の国に来て早や12年 — renovationと失ったもの —

獨協医科大学精神神経医学講座

下 田 和 孝

獨協医科大学に母校・滋賀医科大学から助教授として赴任したのは2003年1月1日であったから、2015年1月で下野の国歴13年目に入った。まさにtime fliesである。

病院内部もずいぶん変わった。StarbucksやLawsonが出店し、おしゃれっぽいcaffeteriaもできドクターヘリのためにヘリポートが建設された。病院前にある広々とした芝生は2011年3月の東日本大震災をsurviveした病院本体の建物も現在、耐震工事を進めている。「さくら」というドミトリーもでき、さらに「いちょう」というドミトリーが建設中である。さらに獨協医科大学創立40周年の記念事業として2015年4月には教育医療棟が完成した。つまり、獨協医科大学はrenovationを着々と進めているのである。

しかし、その一方で残念なことにも気づく。堂々とした木々や桜の一部がそういった施設の新設のためになくなってしまった。獨協医科大学の近代化のためには致し方ないことはわかっているけれども、残念至極である。こういった声は本学ご卒業の先生方から多く聞こえてきた。もう一つ、私個人として「失ったもの」がある。

本誌第2号で述べたように私のオフィスからは日本が世界に誇るworld heritage 富士山が見えていたのである。特に、正月とか台風の後のような空気の澄んだ日の朝、雲の少ない夕焼けの時などにくっきりと見えた。富士山には私のようにthe guy from western part of Japanにとってのみならず、我々、日本人の背筋を伸ばし、興奮させ、元気にさせてくれる神々しいなにかがある。全国に通称、〇〇富士（例えば滋賀県の三上山（近江富士））という山がいくつもあることも富士山が日本人にひろく慕われている証拠であろう。その富士山が教育医療棟の新設に伴い、私のオフィスからは全く見えなくなってしまった。

富士山が見えるような気象条件の時には、教育医療棟に行き、拝むことにしよう。



獨協医科大学臨床医学棟8階下田オフィスから佐野・小山方面に富士山を望む
(2009年1月2日 撮影：下田和孝 使用機器 Olympus E-400)



(2015年6月29日 撮影：下田和孝 使用機器 Olympus E-400)

私のモットー：早着きは三文の得

獨協医科大学精神神経医学講座

下 田 和 孝

昔の人は良く言ったものだ、「早着きは三文の得」である。

2014年11月8日、家内と仙台駅でおちあい、仙石線の中野栄駅にある夢メッセへ向かった。Mr. Bigのライブ前にMeet and Greetという、メンバーと会って写真を撮ってもらうイベントのために早めに会場についた。これは2011年3月15日Zepp Sendaiで予定されていたのだが、東日本大震災のためにキャンセルされたものである。

基本的に私はなんでも早めに到着である。一方、家内はぎりぎり派である（あくまで私の尺からいえば、である）。その日も家内は「どうせ、早く行っても待つだけと違うの?」といつものように文句を言っていたが、「まあまあ、そんなこと言わんと行ってみような」と説得し行ってみた。会場についても何も看板もなく、どこだろう、、、と探していたら、機材搬入口らしきところに10-20人くらいの人がいる、、、ンンン??あの背の高い外国人は??? ええええ? Billy Sheehan?? ああああ?? Paul Gilbert??? Eric Martin?? Pat Torpey?? 幻視か??

Mr. Bigのメンバーがサインや写真をせがまれて丁寧に応じている。私もカメラを取り出し、Billy Sheehanに「一緒に写真撮ってもらっていいですか?」と尋ねると「もちろんだよ〜♪♪」と!! 宇宙最速の速弾きと言われるPaul Gilbertにも同様にお願いするとOK!!

しか〜し、無情にも「カメラのバッテリーがもうありません」とウルトラマンのように赤の点滅。私はロックの神様に「私が何か悪いことをしたのでしょうか。それともロックの修業が足りないのでしょうか。それなら悔い改め、ロック道に精進致します。だから、もう1ショットだけ、なんとかお願いします」と心の中で念じたら、なんと!! カメラは再起動し、Paul Gilbertとの写真も撮影できた。

もう一度、言っておく。昔の人は良く言ったものだ、「早着きは三文の得」である。

これ以降、家内は「あんまり早く行っても待つだけと違うの?」とはあまり言わなくなったような気がする。でも、こんなことならン万円払ってMeet and Greetなんて申し込まなくてもよかったわけではあるが。。。



「宇宙最速の早弾き」 Paul Gilbert氏と



Billy Sheehan氏と。



Mr. BigのメンバーとMeet and Greet。

私のモットー

獨協医科大学精神神経医学講座

齋 藤 聡

私には時々思い出す言葉があります。「辛いときは上り坂、楽なときは下り坂」という言葉です。実はテレビで某お笑い芸人が言っていた言葉なのですが、とても印象に残っています。

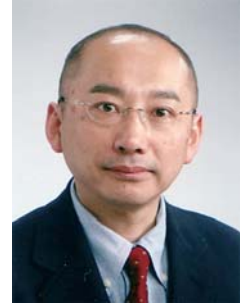
実際、楽な時というのはどういう時かと考えると、仕事でいうと自分が当たり前に来ることを当たり前になしている時ということになります。これは実際楽で、自分は何でも出来るような万能感を錯覚することすらあります。しかし、実はその楽な期間において成長することはなく、極端に言うと自分の貯金を切り崩している期間と言っても良いかもしれません。

逆に仕事で苦しい場面に直面すると様々な負の感情が湧き上がってきます。不安、怒り、抑うつなど我々が日常臨床で治療の対象にしているワードです。しかしよく考えてみるとそれらの感情は、直面した問題に対処するだけの技術や経験、知識といったものをその時の自分が持ち合わせていないから生じるのだということに気づかされます。

出来るだけ楽をしたいというのが人間の信条ではありますが、生きてると困難は頼まなくてもやってきます。中にはうまく困難を回避できる人間もいるかもしれませんが、私は最近そういう境遇をあまり羨ましいとも思わなくなりました。楽な経験ばかり積み重ねていると、先ほどの負の感情とじっと睨めっこするだけの人生になります。即ち、困難に直面してもただ逃げることや、自分の無能さを棚に上げて周囲に当たり散らすしか出来なくなってしまう。また、成人してからの「自信」というのは結局、結果の内容如何に関わらず自分で困難を乗り越える、即ち自らの手で自分なりの答えというものを見つけていくという行為を積み重ねることで培っていくものだと思うのです。これは例えば思春期の少年などが持っているような根拠の無い自信とは質的に異なり、より確固たるものであると最近思うのであります。

私のモットー

特定医療法人清和会 鹿沼病院
駒 橋 徹



私が育った家庭でのモットーは、「1に健康、2に勉強、3に人に迷惑をかけること」であった。小さい頃、繰り返し母親から言われ続けた。その影響もあって健康への気遣いは他の方々よりも強いかもしれない。

40歳になった頃、整形外科の友人から、「40歳を過ぎたら意識して筋力を鍛えないとどんどん筋力が衰えてしまう」と教えられた。それで、毎日入浴前に、腹筋・背筋トレーニングと腕立て伏せを30回ずつ行うようになった。また、同じ頃にエアロバイクを「〇分でなければ」と始めた。いつの間にか腹筋・背筋トレーニングと腕立て伏せは行わなくなってしまうが、エアロバイクは少しずつ時間が延びて、現在は毎日40分間、本を読みながらペダルを漕いでいる。約200kcalの消費量である。

ところで、2010年5月20日（48歳）テニス中に左アキレス腱を切ってしまった。「最近はずっとスポーツ以外手術をしない」とのことで、約3カ月間装具をつけて治療した。その結果、左下肢の筋力が落ち、今でも左右の下腿の太さが全く違う。日頃の歩行で左下肢に体重をかけるようにしたり、左足のつま先立ちを行ったりしたところ歩くのには困らなくなってきたが、左アキレス部には不安全感が残り、階段を降りるときに少し不安定で怖さが残る。

そういう中、「ロコモティブシンドロームの予防を」と良く耳にするようになり、「このままだと自分が高齢になったときに転倒の危険が増すのではないか？」と考えるようになった。そこで、今年の6月頃から、毎日40分間のエアロバイクに加え、スクワット、開眼片脚立ちを行うロコモーショントレーニング（ロコトレ）と、カーフレイズ（踵上げ）とフロントランジ（片脚を前方に振り出して腰を沈める）とロコトレプラスを行っている。結果、毎日約60分の運動になる。ロコモーショントレーニングを始めてから、気持ち左下肢がしっかりしてきたような印象がある。

以上、モットーというほどではないが、毎日、行っている運動について述べてみた。運動不足の方々、運動を心がけましょう。

私のモットー：～【運】～

特定医療法人緑会 佐藤病院

佐 藤 勇 人

今回の原稿依頼が来たときの、第一印象は「そこかよ！」で、次が「俺なの？」でした。毎回編集に携わる先生方は、依頼する執筆テーマを決めるのは一仕事と御推察します。今回は正攻法なテーマですが、自分をみせなければならない事は、少し気恥ずかしいです。また、立派な方々がおられる我が同門会で、ちゃらんぼらん私への指名は、修行ですかね？

まあ、自分を見直すいい機会と捉えて、書かせていただきます。

私のモットーは、【運】です。補足をさせていただくと、「運がいい自分を自覚する」と「運が来る行動を自然に行う」ということです。

自身を顧みた時に、大した能力のない私が、現在曲りなりにも院長職に就かせていただき、日々を暮らせていただいております。中学・高校と一学年下が優秀であり、「お前らはダメ」の烙印を押されつつ、一応は地方の進学校には進学して、まだ医学部が人気になっていない時代に、大した成績でないのに医学部に進学できた事は運がよかったと素直に感じています。

大学進学後は一学年上と下の優秀な学年に挟まれながらも、それらの学年の国家試験が難しく、比較的易しかった国家試験年となり、晴れて医師となれました。（この時代も「お前らの学年はダメ」はついてまわったけどね）

その後の人生においても、いろいろなピンチがありましたが、その度に助けてくれる人がいてくれたり、様々に切り抜けてまいりました。

近頃の話では、本年7月9日にタクシーに乗っている交通事故に遭遇して、一歩間違えば死んでいた事故でしたが、何とか皮下血腫と数か所の創傷ですみました。（下田教授には、「変なタクシー乗ってるからや！ハイヤー紹介しまっせ」と温かい？お言葉をいただきました。）

「だいじだ！（方言で大丈夫の意味）俺は運がいいから」は、自分の口癖になってます。ピンチの時に言うことが、多いですかね。

運を持ってくるために何をするかですが、運を持ってくるためと考えた瞬間に運が逃げていくような気がします。多分、打算なく自然と行っていることが運を呼んでくるのかなと思います。

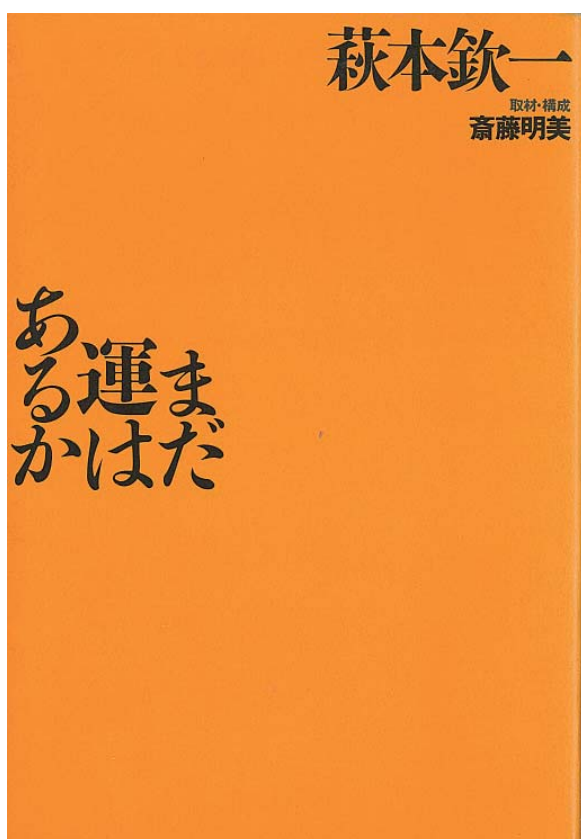
意識してやっている事は、巨人ファンの私が、幸運のシンボルであるツバメを大切にしているくらいです。（いささか、宗教じみた事を書いている自分が不思議です。私は、宗教や変な団体には入っておりませんので、誤解なきようにお願いします。）

また、私自身は運というのはプラスマイナスゼロと考えています。「好事魔多し」、「苦あれば楽あり」、「勝って兜の緒を締めよ」、「春の来ない冬はない」と考えた方が、悪い時に希望を持てるし、いい時も備えができますよね。

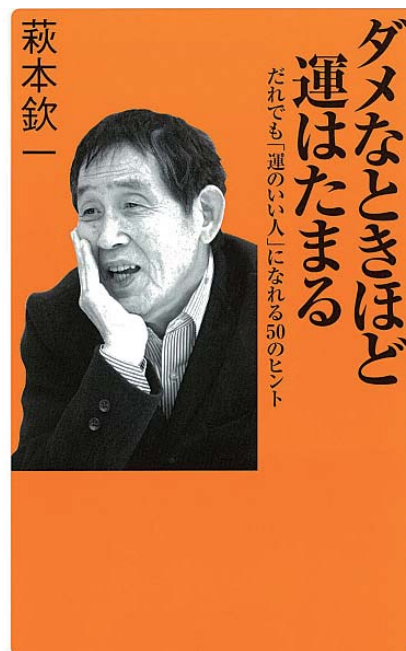
こんな事を漠然と考えていたのですが、同じような事を考えていた人がいました。タレントの萩本欽一さんです。かなり前にブックオフの100円コーナーにあった欽ちゃんの本を買いました。題名は、「まだ運はあるか」で、1999年11月に発刊です。拾い読みでしたが、結論としては、私と同じような事をもっと自己肯定的に書いてありました。（私は欽ちゃんほど、ナルシストでは

ありません。) 欽ちゃんのような芸で食べてきた人が、「運だけで生きてきた」と言い切る事が不思議でしたけどね。

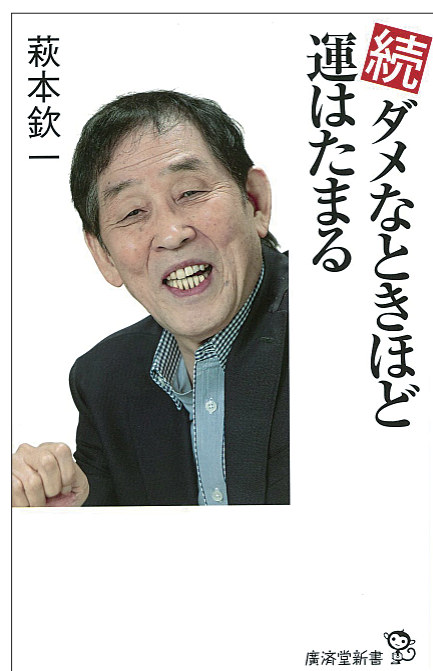
欽ちゃんによると、「運は貯まる」そうですので、興味があれば御一読下さい。(運に関しての新刊も出ており、それなりに売れたみたいです。私もこの原稿を書くのに購入してみました。)



1999年11月5日 第1刷発行
大和書房



2011年1月31日 第1版第1刷
廣済堂新書



2015年2月11日 第1版第1刷
廣済堂新書

わたしのモットー

獨協医科大学精神神経医学講座

北 原 亜加利

「モットー」とは、生涯を通して行動の指針となる言葉であるとすれば、かの有名な甲州武田軍団の「風林火山」のような、人生の大黒柱的な立派なモットーは今の私には無い（いや、決まっていなくていいか）。

と言っても、ここまでの人生で座右の銘とすべき言葉に出会わなかったという事ではない。

私は、何か大きな行動指針があって、常にそれに従って行動してきた訳ではなく、その時々の問題を何とかしようともがいているうちに、いつの間にか解決を見えるということを繰り返してきた。その時に「あなたのモットーは」と問われれば、それは、振り返ってみて何か言葉を絞り出せないことはないという程度の代物であり、言わば「後付けモットー」なのである。

今、私はいわゆる「タイヘン」である。みんながそう言うのだ（なにしろ、職業人で家庭人で時々スポーツにも手をだしたりするから、そうなのかもしれない）。

みんなに言われるから今の自分を「ワタシハタイヘンナノダ」と思っていたが、昔々の或る時の私も今と同じくらい「タイヘン」だったことにふと気が付いた。

アスリートとして桃太郎と同じ「日本一」と、医師を同時に目指したときの山は高かった。その時と今と単純比較はできないが、曲がりなりにも一度乗り越えた山は実際より「低く」感じる。従って今の私が越えなくてはならない山も実際よりは「低く」見え、おかげで少し気が楽になることがある。ここから私のモットーを引き出すとすれば「高い山は若いうちに越えておけ、しかもできるだけ高いのを」ということになるだろうか。

さて、以下は蛇足であるが、私は何か事に処する時、ひまわりをイメージする。ひまわりの花は、太陽に向かってグングングン伸びていき、やがて、太陽に似た見事な花をさかせる。そして夏の代表として君臨したのちには、自身を支えきれないほどの大量の種を保持し、やがて朽ちていく。

ひまわりは私の理想なのである。台風がこなければ…。何か目標をめがけてすすむとき、上に上に伸びていくだけでは、伸びどまることがある。それは怪我や病気だったり、スランプだったり。あるいは自身を取り巻く環境の変化も意地悪をする。それらはひまわりにとってまさに台風である。職業と家庭の狭間で吹き飛ばされそうな今こそ、台風の中のひまわりは今にも根元からへし折れそうである。

困難に捕まった時に、よく思い出す言葉がある。

オリンピック金メダリストの高橋尚子が言っていた。初めてテレビで聞いた中学生のころから、現在まで勇気づけられている。それは「花が咲かない寒い日は、下へ下へと根を伸ばせ」・・・だ。（あれ？これもモットーかな）

上に伸びられないなら、下にながちり根を張って、台風がきても倒れないひまわりになればいい。そう思った、中学生のわたしは、あるスポーツで日本一になり、文武両道を決め込んで、現在医師として働くことができています。

今のわたしは、ひまわりではなく、もぐら、といったほうがイメージしやすい。上下だけではなく、四方八方に暗闇を掘り進めながら、たまに思わず外に出てしまい太陽（目標）で目がくらんで方向を見失いそうになる。それでも、掘り進めながら、飛躍の糸口をつかむ機会を狙っている。少しずつでも、大変でも、足を止めない。上下、時々、左右、斜めにも、とにかく足を止めずに進んでいる。言葉ではないけど、こういう行為がいつか私の大黒柱のようなモットーを決めてくれるかもしれないという気がする。

平成26年 外来統計

獨協医科大学病院精神神経科 外来医長
岡 安 寛 明

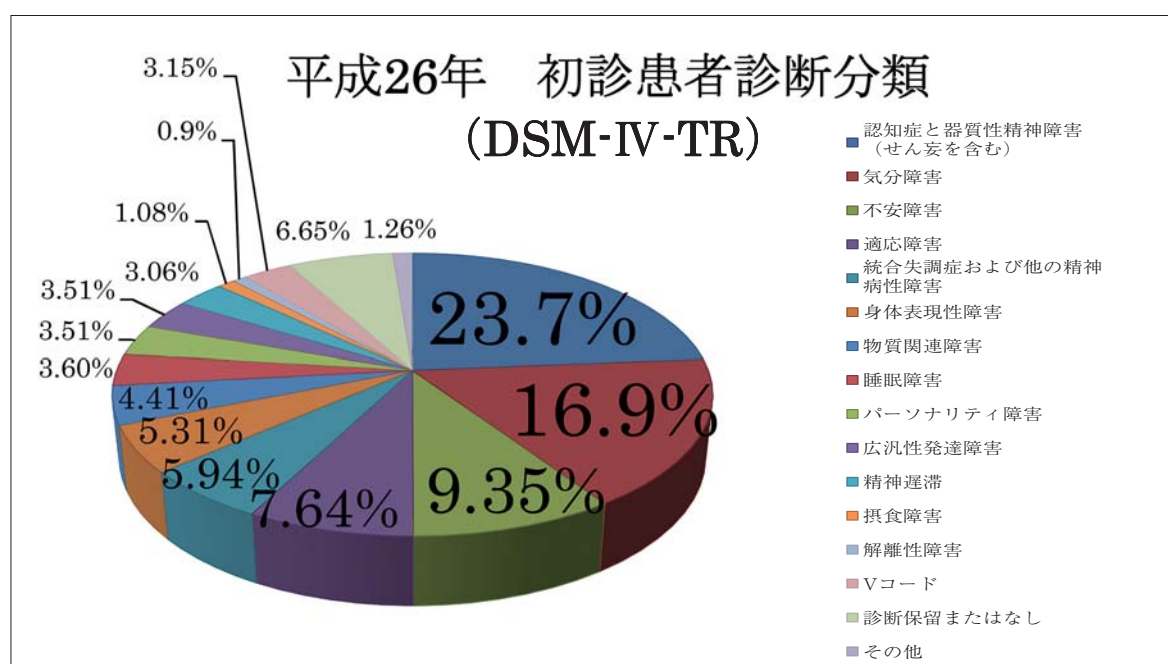
関連各病院の先生方には、平素より大変お世話になり誠にありがとうございます。

平成26年は診療報酬改定により、これまで以上に向精神薬の多剤併用に対して、厳しい措置をとられることとなりました。当科としましては、多剤併用を可能な限り減らしていくように努め、外来を担当していただいている先生方に御協力をお願いすることもありました。諸先生方には、快くお引き受けくださったこと、誠に感謝しております。

平成26年1月～12月までの新患者数971名、総再来患者数32169名（月平均2680名）となり、患者数が大きく落ち込んでしまった前年と比較して、新患者数（約60人増）、再来患者数（月平均で約15人増）ともにわずかではありますが増加することができました。これも外来を担当していただいている諸先生方の日頃の努力と、各関連病院の先生方の御協力、御指導のおかげと思っております。今後も、医局員一同、尚一層の努力をしていく所存ですので、これまで同様の御支援の程、何卒よろしくお願いいたします。

新患者の内訳としては、認知症疾患センターを開設していることや、他科からせん妄の治療を依頼されることもあり、例年通り、認知症と器質性精神障害が多くを占めました（平成27年度から当科では診断にDSM-5を運用することになりましたが、今回の統計に用いた診断はDSM-IV-TRに基づいております）。また、身体疾患を合併されている症例が新患者全体の68.2%と半数以上を占めていることも、総合病院である当院の特色と考えております。

平成20年から完全予約制を導入したため、診察をお待ちいただくこともあり、地域の先生方を初めとして、諸機関の皆様には大変ご迷惑をかけておりますが、当科での治療が望ましいとご判断頂きました症例におきましては、今後とも是非ご紹介いただきますようお願い申し上げます。



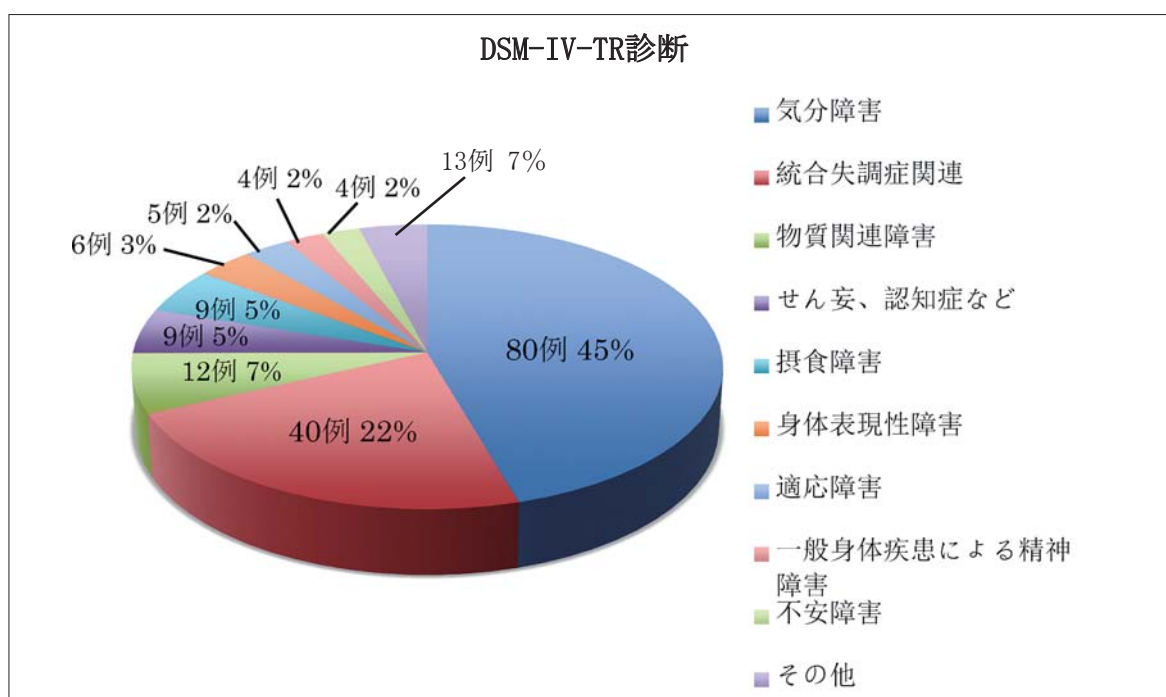
平成26年 入院統計

獨協医科大学病院精神神経科 病棟医長
石 川 高 明

平成26年の入院患者統計について報告させていただきます。代表的な疾患の比率をみますと、気分障害が45%、統合失調症が22%と前年度の統計と概ね同様の傾向でありました。認知症を含む器質性精神障害の入院患者数も例年とほぼ同数（9例/年）でありました。急性薬物中毒をはじめとする物質関連障害による入院は実数（12例/年）、入院全体に占める比率（6.8%）ともに減少傾向がみられました。

地域および関連病院の諸先生方には日頃から貴重な症例をご紹介いただき大変感謝しております。ご承知のように、我々の病棟は開放病棟（42床、うち保護室1床）であり、著しい興奮状態にある急性期の症例を常時受け入れられる治療環境であるとは言えません。しかしながら、重篤な身体合併症のある患者で早期の対応が必要となる症例、治療に際して一般身体科との連携が必要な症例、修正型電気けいれん療法やクロザピンが適応となるような症例は大学病院精神科が対応していくべきであり、当医局として今後も積極的に対応していきたいと考えております。また、当院での急性期治療が終了したのちに継続治療が必要と判断される患者様につきまして当院から転院依頼をさせていただく場合があります、その際にはご支援ご協力をいただけると幸いです。

県内でも精神科救急医療の改革が進んでおり、当院を含めた総合病院精神科と地域の精神科病院、さらに精神科診療所との連携がますます重要になってきております。大学病院精神科の特色を生かしつつ地域の精神科病院の要望に応えることができるように当院スタッフ、力を合わせて努力していく所存です。諸先生方には忌憚のないご意見を今後ともよろしくお願い申し上げます。



人事往来

■2014年度

石黒 慎、山形県立鶴岡病院に転任（2014年4月1日）
林 有希、氏家病院に転任（2014年4月1日）
加藤征樹、森病院より復帰（2014年4月1日）
北原亜加利、栃木県立岡本台病院に転任（2014年4月1日）
篠崎将貴、レジデントとして採用（2014年4月1日）
熊懷りか、学内助教として採用（2014年5月1日）

2015年1月現在の講座スタッフ

主 任 教 授	下田和孝
准 教 授	尾關祐二（医局長）
講 師	大曾根 彰
学 内 講 師	藤井久彌子、渡邊 崇
助 教	石川高明（病棟医長）
学 内 助 教	岡安寛明（外来医長）、藤平明広、長谷川千絵、近藤年隆、加藤征樹、熊懷りか
レジデント	篠崎将貴
大学院生（社会人大学院生）	青木颯子（栃木県立岡本台病院）、宋 大光（宋こどものこころ醫院）、 高野有美子（森病院）
臨床心理士	小西 徹、新井怜子、袴田リナ
医 局 秘 書	堀田葉月
学内講師（派遣）	小杉真一（大澤台病院）、佐伯吉規（がん研有明病院）
助教（派遣）	鈴木武士（大平下病院）、上田幹人（滋賀里病院）、齋藤 聡（滝澤病院）
学内助教（派遣）	室井宏文（室井病院）、鮎瀬 武（菊池病院）、萩野谷真人（室井病院）、 高野有美子（森病院）、林 有希（氏家病院）、青木颯子（栃木県立岡本台病院）、 篠崎隆央（鹿沼病院）、北原亜加利（栃木県立岡本台病院）
研 究 生	佐藤勇人（佐藤病院）、森 和也（佐藤病院）
名 誉 教 授	大森健一（滝澤病院）
特 任 教 授	高橋三郎（埼玉江南病院）
非常勤講師	中野隆史（獨協大学）、黒田仁一（栃木県立岡本台病院）、朝日公彦（朝日病院）、 朝日晴彦（朝日病院）、駒橋 徹（鹿沼病院）、藤沼仁至（大平下病院）、 堀 彰（栃木県立岡本台病院）、渡邊昭彦（川村学園女子大学）、 室井秀太（室井病院）、岡田正樹（日立梅ヶ丘病院）、石黒 慎（山形県立鶴岡病院）

新入局員挨拶

加 藤 征 樹 (2013年10月入局 栃木県出身)

平成25年10月より獨協医科大学精神神経医学教室に入局させていただきました。平成10年から2年間の精神科研修の後、人間というものを全部に関わりたいという気持ち（いまとなればそんなことは出来ないと分かりますが）に駆り立てられ、救急医療を経て整形外科医として臨床に携わっておりました。一定の経験を経て安定を感じ始めていましたが、40歳という節目を過ぎて、新たに意味を感じられる仕事ができたらいいなという思いが強くなっていました。そんな折、下田教授に縁があり、お声掛けお誘いをいただき、入局を決断させていただきました。

新しい知識を得ることの楽しさと、精神医療を取り巻く環境や臨床の変化への驚きが、最初にありました。また久しぶりの大学勤務、40歳を超えてからの新人の役割（怠け癖がついていることを身に染みて感じました）等々、いろいろ楽しく過ごさせていただいています。入局当初より感じていましたが、臨床では精神科であっても整形外科であっても、臨床の問題を解決する考え方には違いがないことを強く感じています。患者視点、問題の整理(診断)、過不足ない適切な介入、リハビリといったものは、当たり前ですが変わりなかったです。いまは手術に変わる、薬の使い方、心理教育といったものを学びながら日々患者さんのためにできることを模索しているところです。

至らぬこと点は沢山ありご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、どうぞご指導のほどよろしくお願いします。

新入局員挨拶

篠 崎 将 貴 (2014年4月入局 千葉県出身)

平成26年4月に精神神経科医局に入局しました。入局早々に足踏みをしてしまいましたが、最近日々医局の先生方に支えられながら、少しずつ仕事に慣れてきています。

私は大学の進路を選択するときに、医学部にしようか教育学部にしようか迷ったということもあり、研修医時代は子どもと関われる仕事が良いかと考えていました。しかし、研修で様々な科を経験していくなかで、単に身体だけを治そうとしてもうまくいかないことが多く、身体疾患の症状では説明ができないような場面にしばしば遭遇しました。この原因は何なのだろうと不思議に思っていました。そんな時に、地域医療の一環として、同門の先生が院長を務める精神科病院に研修に行きました。そこで、初診の患者さんの問診をしていくなかで、一つ気付いたことがありました。それは、身体各科で診察するときは、患者さんの状態を「点」で捉えていた(例えば、「今日の血液検査はデータが良くなっている」など)ということです。精神科の診察では、生まれた場所から家族構成、生活歴、性格、発達など、それこそ目の前の患者さんの人生全体を「線」で捉える必要があることが、自分にとっては衝撃でもあり、精神科の魅力にどんどん引き込まれていきました。また、精神科病院での研修のあとに大学の精神科で研修をして、そこでも驚きがありました。身体疾患に加えて精神疾患を罹患している患者さんが多く、内科的な治療もできるということでした。この研修で見た2つの治療環境は、私にとってはやりたいことが出来る、まさに天国のように映りました。しかし、この期に及んでも小児科に行こうか精神神経科に行こうか悩んでいた私に、先述の院長先生から、「子どもの発達に興味がある人は少ないからすごく良いと思う。だけど、子どもはいずれ大人になりますよ。精神科なら大人になっても治療に関わることができます」とアドバイスを頂きました。その言葉を頂いた直後に下田教授に入局のお願いをしに行きました。

少しずつではありますが、ゆっくりと着実に精神科医としての基本を身に着けたいと思います。同門の先生方には、今後ともご指導のほど、よろしくお願いいたします。

新博士誕生

獨協医科大学精神神経医学講座

青 木 顕 子

この度、学位を取得することが出来まして、この場をお借りしましてご報告申し上げます。

学位論文を作成するにあたり、研究計画の立案、遂行、サンプルやデータの収集には、石黒慎先生、渡邊崇先生、上田幹人先生、林有希先生、秋山一文先生、加藤和子先生、土嶺章子先生、古郡規雄先生、下田和孝教授にご協力いただき、血中濃度の測定については井上義政様からご協力をいただきましたことを感謝いたします。

私たちは多くの患者様の治癒を援助するなかで、患者様に共感する姿勢や医学的知識のみでなく、疾患の予防・診断・治療方法の改善・原因の解明を行っていくことが必要です。それらにあたっては、問題意識に立脚し、臨床試験や疫学研究の実施を行い、根拠に基づく医療を行うことが必要であり、それがなくては、患者様の生活の質の向上は目指せないと考えます。

包括的医療が重要であることは、実際に臨床を行うことで日々実感しており、その中で研究もまた必要不可欠であると考えております。

今回、論文執筆にあたり、問題意識に対して、臨床試験・疫学研究を行わせて下さいました、諸先生方、誠にありがとうございました。

精神科医としては、臨床・研究ともにまだ未熟であり、勉強・経験不足ではありますが、今後とも諸先生方には、ご教示・ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。



新博士誕生

「恐れ多き医学博士」

宋こどものころ医院

宋 大 光

みなさま、こんにちは。大阪の宋です。

このたび、下田先生をはじめ多くの先生方のご協力のもと、医学博士の称号をいただきました。4年前に越谷病院の井原裕先生を通じて、下田先生と初めてお会いし、社会人枠での大学院への入学、論文を書くことへのお許しをいただけたことは僕にとって本当に幸運でした。それまでの僕は論文1つも書いたことがなく、他人の論文を読んであーだこーだという言うだけの医者でした。そんな自分がいやで、論文を書きたいという気持ちを下田先生にお話ししたところ、ご協力をいただけるとのお返事を頂戴できました。

論文を書くという工程を経験させていただいて一番感じたのは、一つの論文を完成させるということは本当に大変なことなんだという一見、当たり前のことでした。これは論文を書いたことのある人しかわからないことですね。僕は論文を書いてる途中に開業するというイベントもあり、昼間の診療が終わってから夜間、休日の空いた時間に論文と向き合うという生活でした。僕が唯一きつかったと言えるなら、それだけかもしれません。あとは下田先生のご指示について行っただけです。

今改めて思うことは僕なんかが医学博士なんて恥ずかしくて口にできないということです。お前は医学の何を分かっているんだと自分に言いたくなります。でも、もしかしたら医学をわかっていないという気持ちで日々の臨床に臨んでいくことが自分の成長につながるのではないかと思います。

これからの目標はこれまでと変わらず、目の前の患者さんを治療することがうまくなりたいということだけです。治療の打率を上げたい。1本でも多くヒットを打っていきたい。それが患者さんにとっても僕にとってもうれしいことであるから。ただそれだけをシンプルに目指していきたいです。そのために僕が自分に対して認識している課題は山積みです。その課題の多さに興奮しつつ、その一つ一つをクリアしていきたいです。



新精神保健指定医誕生

獨協医科大学精神神経医学講座

藤 平 明 広

昨秋、精神保健指定医を無事取得することができました。症例レポート作成に関して、年末年始でご多忙中にも関わらずご指導してくださいました下田和孝教授、藤井久彌子先生、石川高明先生、医療法人誠之会氏家病院 松村 茂院長先生には改めて御礼申し上げます。また、岡安寛明先生には症例レポートのコツなどを教えて頂き、栃木県庁保健福祉部障害福祉課のご担当の皆様には、申請手続きにあたり記載項目等を丁寧に確認していただき大変感謝しております。

症例レポートを通じて、この精神保健指定医を取得するにあたり、当医局は素晴らしい指導体制があると実感致しました。症例レポートの公式な例示がなく、それでいて記載必須項目をふんだんに設定しており、字数制限があり、更に誤字脱字で一発アウトという大変厳しい条件であり、独学では到底無理だと思います。そういうシステムもいかなものかと思いますが。当医局では、お忙しいなか上級の先生の細かい指導を頂き、御正月でも下田教授の指導が受けられるなど大変恵まれた環境であると思います。

何とか指定医になれましたものの、精神科医としては未だ未だ経験も少なく、生涯勉強、日々精進していく所存です。今後とも諸先生方には御指導、御鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

～獨協医科大学・新潟大学対抗戦レポート～

獨協医科大学精神神経医学講座 ゴルフ部部長

石川 高明

新潟大学精神科ゴルフ部との第4回対抗戦（幹事：新潟大学）が平成26年11月23日に赤城ゴルフ倶楽部にて開催されました。今回の「獨協チーム」は下田教授、石川、林先生（前回の対抗戦の個人戦で優勝）、秘書の堀田さん、さらに平成27年度の新入局員 川俣先生の5名という陣容で臨みました。下田教授が個人戦でグロス、ネットともに4位のスコアを出し、ドラコン1ホールを獲得したものの、刺客として送り込んだ川俣選手も不発に終わり、チームとしては再び辛酸をなめることとなりました。ベスグロ(40-35)は今回も染矢教授で全く隙がみられませんでした。

これまでの対抗戦はことごとく新潟大に負けており、優勝トロフィーを栃木に持ち帰るという悲願がいまだに達成されていません。毎回、下田教授の「なんとかしようや」という落胆の声を聴くことがすっかり恒例になってしまいました。負け続けることで負け癖がついてしまっている感じがあり、獨協のメンバーは危機感を持ち始めています。

今回の対抗戦に敗れてから下田教授がゴルフ部のメンバーに対して、「Putter is money！」とパッティングの重要性を説くようになりました。次回の対抗戦に向けて、メンバー全員が「Putter is money！」というフレーズが持つ重みを理解し、実践する必要があります。パッティング以外にも課題をあげればきりがありませんが、これまでの対抗戦で得た教訓を生かし、メンバー各々のレベルを向上させ、次回の対抗戦ではなんとしても新潟大に一矢報いたいと思います。新潟大の牙城を崩すのは大変ですが、今回は獨協が幹事ということもあり、様々な作戦を練って対抗戦に望む所存です。

我々は挑戦者だ、失うものは何もない！



晴天に恵まれた赤城ゴルフ倶楽部で和やかに記念撮影に望む面々。獨協の惨敗を予想する者はおらず、ラウンド前のメンバーは晴れ晴れとしていたが・・・。



獨協メンバーの中でベストスコア（グロス104）を出した下田先生に4位の表彰。「獨協のほかのメンバーはどうなってるんだ？」とやや不満な表情。プレゼンターは新潟大学の須貝先生。

— 写真で見る講座・大学の動き —



栃木こころの絵画書道展（2014年2月18日－19日、栃木県総合文化センター）



2013年度医局旅行（2014年3月22日－23日、伊香保温泉、伊香保カントリークラブ）
下田賞だったと思うが、、、ま、とにかく川俣安史先生へ。

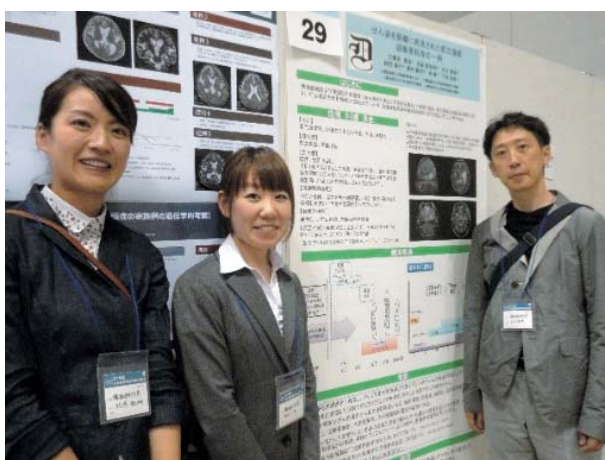


2014年度医局・外来・病棟 歓送迎会（2014年4月28日）

写真中：お酒が入るといつも楽しく饒舌になる渡邊 崇先生。下田教授とは獨協精神神経科史上最強（最悪？）のコンビ？ 写真右：「行くぞ～」の石川高明医局長。後ろのほうで「お～、いけえ～」とやっているのは滝澤貴美子外来主任。



第2回Dokkyo Psychiatry Club（2014年6月9日）菊山裕貴先生（新阿武山病院）



第110回日本精神神経学会学術総会（2014年6月26日－28日、横浜）

左から北原亜加利先生、斎木美佳先生（現在、獨協医科大学病院神経内科）、石川高明先生、大曾根彰先生、藤平明広先生



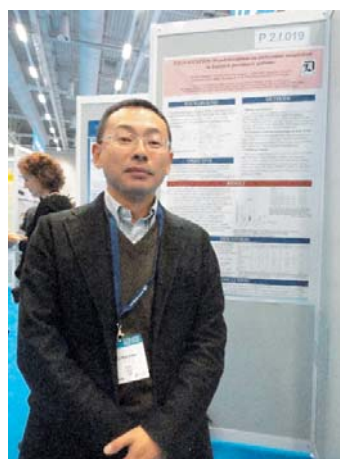
平成26年度獨協医科大学認知症疾患センター講演会（2014年8月30日、関湊記念ホール、壬生町）
写真中：小阪憲司先生による講演「認知症の臨床と介護」



第36回日本生物学的精神医学会・第57回日本神経化学会大会（2014年9月29日－10月1日、奈良）
発表後、緊張感が抜けないままの表情の青木颯子先生。



第3回日本精神科医学会（2014年10月9日－10日、名古屋）
左から下田和孝教授、菅原典夫先生（青森県立精神保健福祉センター）、尾関祐二准教授、須貝拓朗先生（新潟大学）



27th congress of European College of Neuropsychopharmacology, Berlin, Germany, October 18-21, 2014.
写真右：渡邊 崇先生



27th congress of European College of Neuropsychopharmacology, Berlin, Germany, October 18-21, 2014.
写真左：旧東ベルリンの風景もいまや観光地化されている。写真右：実物のはじめてみたTrabant。



27th congress of European College of Neuropsychopharmacology, Berlin, Germany, October 18-21, 2014.
ベルリンの壁もCheckpoint Charlieもいまや観光資源に。



公衆衛生学会（2014年11月5日－7日、宇都宮）

下田和孝教授の右側、藤本直樹先生（藤本クリニック）、名越 究医療監（当時 現在、環境省総合環境政策局環境保健部）、鈴木隆雄先生（国立長寿医療研究センター研究所）、池田 学先生（熊本大学）。下田教授、藤本先生、池田先生は高校が同窓（岡山県立岡山朝日高校）、名越先生も出身が岡山市と「岡山軍団」による市民公開講座「認知症の予防・治療・介護」

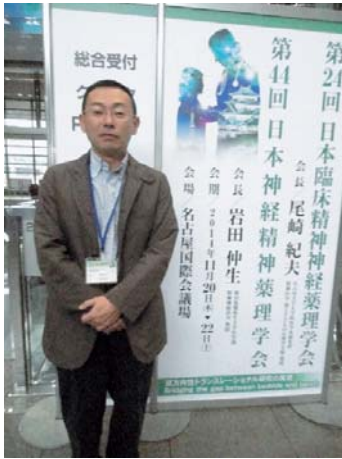


第3回Dokkyo Psychiatry Club（2014年11月10日）岸 太郎先生（藤田保健衛生大学）



2014年度獨協医大－新潟大学ゴルフ対抗戦（2014年11月23日、赤城ゴルフ倶楽部）

写真中はネット、グロス4位に食い込んだ下田教授。写真右はネット7位に沈んだが、捲土重来を期す林有希先生。



第24回日本臨床精神神経薬理学会・第44回日本神経精神薬理学会（2014年11月20日－22日、名古屋）
写真左：渡邊 崇先生、写真右：林 有希先生



第24回日本臨床精神神経薬理学会・第44回日本神経精神薬理学会（2014年11月20日－22日、名古屋）
写真左：左から川俣安史先生、下田和孝教授、渡邊 崇先生、林 有希先生、石黒 慎先生
写真右：左から岡安寛明先生、下田和孝教授、川俣安史先生、林 有希先生、尾関祐二准教授、石黒 慎先生

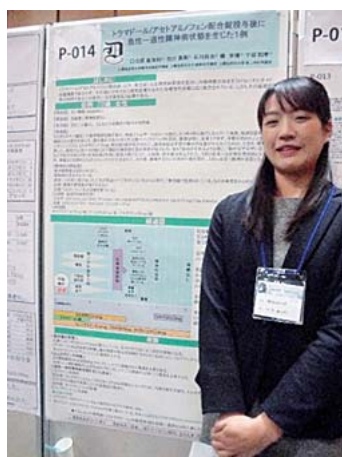


10th Korean society of clinical pharmacology and therapeutics -Japanese society of clinical pharmacology and therapeutics joint symposium (November 14, 2014, Busan, Korea)
写真左：釜山で開催しているのにJSCPTを先にしてきているという心遣い。こういうことがあれば争いなど絶対に起きない。 写真右：下田教授のKorean elder brother, Hyung-Keun Roh先生（Gachon University）と大韓民国・臨床薬理学の父、San-Goo Shin先生（Seoul National University）



いつものパターン。韓国の先生方はみなゴルフ大好きです！

左からHoward Lee先生（Seoul National University）、下田教授、Hyun-Keun Roh先生（Gachon University）、San Goo Shin先生（Seoul National University）（November 14, 2014, Asiad country club, Busan, Korea）



第27回日本総合病院精神医学会総会（2014年11月28日－29日、つくば）

写真左上：長谷川千絵先生 右上：佐伯吉規先生 左下：北原亜加利先生 右下：萩野谷真人先生

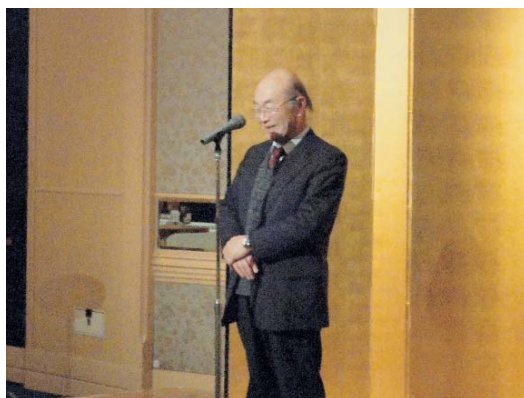


第35回日本臨床薬理学会（2014年12月4日－6日、松山）

写真左：左から渡邊 崇先生、渡邊衡一郎先生（杏林大学）、下田和孝教授、古群規雄先生（弘前大学）、加藤正樹先生（関西医科大学）。写真右：左から岡安寛明先生、渡邊 崇先生、尾関祐二先生。



2014年度獨協医科大学精神神経医学教室同門会総会（2014年12月6日、宇都宮東武ホテルグランデ、宇都宮）
同門会の講演会は藤田 潔先生（桶狭間病院 藤田こころケアセンター）のご講演。



2014年度同門会・精神神経科合同忘年会（2014年12月6日、宇都宮東武ホテルグランデ、宇都宮）
大森健一名誉教授のご挨拶。



2014年度同門会・精神神経科合同忘年会（2014年12月6日、宇都宮東武ホテルグランデ、宇都宮）



2014年度同門会・精神神経科合同忘年会（2014年12月6日、宇都宮東武ホテルグランデ、宇都宮）
恒例化した派手な出し物！ 藤平明広先生（写真左）のproduce力に脱帽でございます。



2014年度同門会・精神神経科合同忘年会（2014年12月6日、宇都宮東武ホテルグランデ、宇都宮）
日本エレ○テル連合？ちょっと仕込みが足らなかったと反省・・・。



2014年度同門会・精神神経科合同忘年会（2014年12月6日、宇都宮東武ホテルグランデ、宇都宮）
黒田仁一同門会長の締めのご挨拶が聞こえれば、年も暮れである。



2014年度宮坂賞は渡邊 崇先生へ。



医局集合写真（2014年秋）

平成26年度 獨協医科大学精神神経科教室同門会総会次第議事録

平成26年12月6日 於：宇都宮東武ホテルグランデ

当日25人の出席、51名からの委任状により総会開催となりました。下記のように議事進行されました。

1、会長挨拶 黒田仁一 会長

2、議 事

(1) 平成25-26年(H25.12.- H26.11.) 事業報告

1、同門会総会・記念講演会開催 平成25年12月14日 於：宇都宮グランドホテル

記念講演会 滋賀医科大学精神科 山田 尚登 教授

2、平成25-26年 宮坂賞表彰 平成25年12月14日 於：宇都宮グランドホテル

受賞者 藤井久彌子 先生(獨協医科大学精神神経医学講座)

3、同門会誌 第6号 発行 平成26年12月

4、会員名簿発行 平成26年12月

5、平成26-27年 宮坂賞選考

受賞者 渡邊 崇 先生(獨協医科大学精神神経医学講座)

受賞理由：抗うつ薬の臨床薬理学的研究において後進の育成に顕著な
貢献を認めた。

(2) 平成25-26年決算報告(詳細は略させていただきます。)

(3) 平成26-27年(H26.12.- H27.11.) 事業計画

1、同門会総会・記念講演会開催 平成26年12月6日 於：宇都宮東武ホテルグランデ

記念講演会 『精神科病院の今後の展望』

医療法人静心会 桶狭間病院 藤田ころろケアセンター

理事長 藤田 潔 先生

2、平成26-27年 宮坂賞表彰 平成26年12月6日 於：宇都宮東武ホテルグランデ

受賞者 渡邊 崇 先生(獨協医科大学精神神経医学講座)

3、同門会誌 第7号 発行 平成27年10月予定

4、会員名簿発行 平成27年10月予定

5、平成27-28年 宮坂賞選考

(4) 平成26-27年予算案(詳細は略させていただきます。)

(1)～(4)について、会計責任者、監事などからの説明があり承認されました。

(5) 平成26-28年(H26.12.-H28.11.) 役員改選があり下記の先生方に決まりました。

会 長 黒田仁一

世話人 下田和孝 斎藤 治 藤沼仁至 朝日晴彦 松村 茂 石川高明

監 事 駒橋 徹 佐藤勇人

以上にて、無事総会が終了しました。

—— 2014年の講座業績 ——

獨協医科大学精神神経医学講座 主任教授
下 田 和 孝

前号と同様、同門会誌の紙面をお借りして、業績を掲載させていただくことを黒田仁一会長にご快諾いただきましたことを深謝いたします。今後とも、同門会の先生方のご指導、ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

■2013年の講座業績

<国際学会発表>

Matoba N, Kataoka M, Fujii K, Kato T
Whole Exome Sequencing of Trio Families of Bipolar Disorder
21st World Congress of Psychiatric Genetics, Boston, USA, Oct 17-21, 2013

Matoba N, Kataoka M, Fujii K, Suzuki Y, Sugano S, Kato T
Trio-based pathway analysis of bipolar disorder
64th American Society of Human Genetics, San Diego, USA, Oct 18-21, 2013

■2014年の講座業績

<英文原著>

Sugawara N, Yasui-Furukori N, Yamazaki M, Shimoda K, Mori T, Sugai T, Suzuki Y, Someya T
Psychiatrists' attitudes toward metabolic adverse events in patients with schizophrenia
PLOS ONE 2014 Jan 23;9(1):e86826. doi: 10.1371/journal.pone.0086826. eCollection 2014

Osone A, Arai R, Hakamada R, Shimoda K
Impact of cognitive reserve on the progression of mild cognitive impairment to Alzheimer's disease in Japan
Geriatrics Gerontology Int doi: 10.1111/ggi.12292, 2014

Okayasu H, Shinozaki T, Osone A, Ozeki Y and Shimoda K
Development of acute pancreatitis caused by sodium valproate in a patient with bipolar disorder on hemodialysis for chronic renal failure: a case report
BMC Psychiatry doi: 10.1186/1471-244X-14-93, 2014

Fujii K, Ozeki Y, Okayasu H, Takano Y, Shinozaki T, Hori H, Orui M, Horie M, Kunugi H, Shimoda K
QT is longer in drug-free patients with schizophrenia compared with age-matched healthy subjects.
PLOS ONE doi: 10.1371/journal.pone.0098555. eCollection 2014

Nonaka S, Sekine M, Tsunoda M, Ozeki Y, Fujii K, Akiyama K, Shimoda K, Furuchi T, Katane M, Saito Y, Homma H

Simultaneous determination of NG-monomethyl-L-arginine, NG,NG-dimethyl-L-arginine, and NG, NG'-dimethyl-L-arginine, and L-arginine using monolithic silica disk-packed spin columns and a monolithic silica column

Journal of Separation Science doi: 10.1002/jssc.201400240, 2014

Aoki A, Ishiguro S, Watanabe T, Ueda M, Hayashi Y, Akiyama K, Kato K, Inoue Y, Tsuchimine S, Yasui-Furukori N, Shimoda K

Factors affecting discontinuation of initial treatment with paroxetine in panic disorder and major depressive disorder

Neuropsychiatric Disease and treatment doi: 10.2147/NDT.S68670, 2014

Ishikawa T, Shinozaki T, Shimoda K

Rhabdomyolysis after the administration of clarithromycin in a Japanese schizophrenic patient Receiving Aripiprazole: A possible impact of CYP2D6 genotype

Clinical Neuropsychopharmacology and Therapeutics 5:18:22, 2014

<和文原著>

近藤年隆、石川高明、尾関祐二、下田和孝

薬剤調整を行ったことで修正型電気けいれん療法の効果が改善したうつ病の1症例
精神科 25 : 461-464, 2014

萩野谷真人、室井秀太、室井尚武

パリペリドンが有効であった成人トウレット障害の1例
日本精神科病院協会雑誌 33 : 841-843, 2014

<総説>

篠崎隆央、尾関祐二、下田和孝

向精神薬による電解質異常・腎機能障害のモニタリング
臨床精神薬理 17 : 57-62, 2014

尾関祐二、藤井久彌子、下田和孝

シンプル処方 of 極意 - 中等症から重症のうつ病 -
臨床精神医学 43 : 37-43, 2014

青木顕子、石黒 慎、渡邊 崇、下田和孝

特に注意すべき抗精神病薬と一般治療薬の薬物相互作用
精神科治療学 29 : 507-511, 2014

岡安寛明、尾関祐二、下田和孝

向精神薬の副作用と対策 Update QT延長症候群ほかの不整脈
臨床精神医学 43 : 1581-1584, 2014

<その他>

篠崎隆央、藤井久彌子、尾関祐二、下田和孝

Lithiumによる体重増加について知りたい
臨床精神薬理 17 : 217-218, 2014

渡邊 崇、下田和孝

異食症に対して有効な薬物療法は存在するのか？

臨床精神薬理 17：535-536, 2014

大曾根 彰、藤平明広、下田和孝

Lamotrigineによる造血障害のリスクについて知りたい

臨床精神薬理 17：843-845, 2014

岡安寛明、尾関祐二、下田和孝

慢性腎不全のため透析している双極性障害患者に治療薬を選択する際の注意点を知りたい

臨床精神薬理 17：1139-1141, 2014

林 有希、渡邊 崇、下田和孝

Mirtazapineの光学異性体であるS-(+)-mirtazapineは臨床上、有用か？

臨床精神薬理 17：1419-1420, 2014

萩野谷真人、大曾根 彰、下田和孝

季節性感情障害に対して有効である薬物療法とは？

臨床精神薬理 17：1667-1669, 2014

<分担執筆>

下田和孝、高野有美子、尾関祐二

認知症と口腔ケア “医療連携” に役立つ有病者歯科医療マニュアル（白川正順、今井 裕、川又 均、石垣佳希編）医学情報社 50-53, 2014

近藤年隆、林 有希、岡安寛明、下田和孝

類似薬の使い分け 改訂版（編集 藤村昭夫）第14章 抗うつ薬 羊土社 251-261, 2014

<国内学会シンポジウム>

須貝拓朗、鈴木雄太郎、山崎 學、下田和孝、森 隆夫、菅原典夫、古郡規雄、染矢俊幸

抗精神病薬治療と身体リスクに関する合同プロジェクト委員会

統合失調症患者が抱える身体リスク ―外来患者と入院患者の違い―

第3回日本精神科医学会、名古屋、2014年10月9日－10日

尾関祐二、藤井久彌子、高野有美子、岡安寛明、篠崎隆央、下田和孝

向精神薬による循環器への影響 特に心室性不整脈の観点から

第3回日本精神科医学会、名古屋、2014年10月9日－10日

菅原典夫、古郡規雄、山崎 學、下田和孝、森 隆夫、尾関祐二、南 良武、岡本呉賦、寒河江豊昭、松田ひろし、

須貝拓朗、鈴木雄太郎、染矢俊幸

統合失調症患者の身体モニタリング ―これまでの報告といまできること―

第3回日本精神科医学会、名古屋、2014年10月9日－10日

須貝拓朗、鈴木雄太郎、山崎 學、下田和孝、森 隆夫、菅原典夫、古郡規雄、染矢俊幸

統合失調症患者が抱える身体リスク ―外来患者と入院患者のちがい―

第24回日本臨床精神神経薬理学会 第44回日本神経精神薬理学会、名古屋、2014年11月20日－22日

尾関祐二、藤井久彌子、高野有美子、岡安寛明、篠崎隆央、下田和孝

向精神薬による循環器への影響 特に心室性不整脈の観点から

第24回日本臨床精神神経薬理学会 第44回日本神経精神薬理学会、名古屋、2014年11月20日－22日

菅原典夫、古郡規雄、山崎 學、下田和孝、森 隆夫、尾関祐二、南 吉武、岡本呉賦、寒河江豊明、松田ひろし、須貝拓朗、鈴木雄太郎、染矢俊幸

統合失調症の身体モニタリング ―これまでの報告と今できること―

第24回日本臨床精神神経薬理学会 第44回日本神経精神薬理学会、名古屋、2014年11月20日－22日

渡邊 崇、青木顕子、古郡規雄、下田和孝

シンポジウム「精神疾患の臨床試験の問題点」 精神科臨床研究における脱落例について

第35回日本臨床薬理学会、松山、2014年12月4－6日

<国際学会発表>

Matoba N, Kataoka M, Fujii K, Kato T

Trio Based Exome Sequencing Suggest the Role of Calcium Homeostasis-Related Rare Variants in Bipolar Disorder

22nd World Congress of Psychiatric Genetics, Copenhagen, Denmark, Oct, 2014

Kataoka M, Matoba N, Fujii K, Kato T

Exome sequencing identifies de novo mutations in bipolar disorder

22nd World Congress of Psychiatric Genetics, Copenhagen, Denmark, Oct, 2014

<国内学会発表>

石黒 慎、松村 啓、松村 茂、下田和孝

バルプロ酸の副作用である高アンモニア血症に対し、カルニチン製剤が有効であった症例

第37回栃木県「臨床と薬理」研究会、宇都宮、2014年1月31日

北原亜加利、石川高明、阿部英行、釜井隆男、楫 靖、下田和孝

せん妄を契機に発見された前立腺癌頭蓋骨転移の一例

第100回東京精神医学会、東京、2014年3月15日

藤井久彌子、尾関祐二、関根正恵、渡邊 崇、高野有美子、岡安寛明、篠崎隆央、青木顕子、青木秀明、森 玄房、秋山一文、本間 浩、下田和孝

統合失調症患者におけるL-セリン合成能の検討

第9回日本統合失調症学会、京都、2014年3月14日－15日

関根正恵、尾関祐二、藤井久彌子、片根真澄、齋藤康昭、宮本哲也、秋山一文、下田和孝、本間 浩

統合失調症患者血漿中におけるアミノ酸の定量

日本薬学会第134年会、熊本、2014年3月27日－30日

藤平明広、大曾根 彰、下田和孝

修正型電気痙攣療法(m-ECT)の詳細な縦断的評価－m-ECTのリスクとベネフィットの評価を目指して－(第2報)

第110回日本精神神経学会学術総会、横浜、2014年6月26日－28日

斎木美佳、北原亜加利、石川高明、阿部英行、釜井隆男、楫 靖、下田和孝

せん妄を契機に発見された前立腺癌頭蓋骨転移の一例

第110回日本精神神経学会学術総会、横浜、2014年6月26日－28日

野中聖子、関根正恵、角田 誠、尾関祐二、藤井久彌子、秋山一文、下田和孝、片根真澄、齋藤康昭、宮本哲也、本間 浩

HPLC-蛍光検出法を用いたメチルアルギニン類の高感度定量法の開発および統合失調症患者血漿サンプル測定への応用

第27回バイオメディカル分析科学シンポジウム、2014年8月20日－21日

関根正恵、尾関祐二、藤井久彌子、片根真澄、齋藤康昭、宮本哲也、秋山一文、下田和孝、本間 浩
統合失調症患者における血漿中アミノ酸濃度の解析
第27回バイオメディカル分析科学シンポジウム、2014年8月20日－21日

藤井久彌子、下田和孝
アトモキセチンによる薬物療法と心理社会的支援が効果的であった不注意優勢の成人注意欠如・他動症の症例
栃木県ADHD学術講演会、宇都宮、2014年9月17日

藤井久彌子、尾関祐二、岡安寛明、高野有美子、篠崎隆央、秋山一文、下田和孝
統合失調症とQT間隔の両方に関連する可能のある遺伝子群の血液中mRNA発現量の検討とQT間隔との比較
第36回日本生物学的精神医学会・第57回日本神経化学学会大会、奈良、2014年9月29日－10月1日

高野有美子、尾関祐二、関根正恵、藤井久彌子、渡邊 崇、岡安寛明、篠崎隆央、青木顕子、青木秀明、森 玄房、
秋山一文、本間 浩、下田和孝
統合失調症患者における血漿中ホモシステインとL-セリンの関連の検討
第36回日本生物学的精神医学会・第57回日本神経化学学会大会、奈良、2014年9月29日－10月1日

秋山一文、齋藤 淳、倉富 剛、尾関祐二、渡邊 崇、藤井久彌子、齋藤 聡、高野有美子、本田 暁、加藤和子、
下田和孝、大森健一、森 玄房
22q11.2～22q12.1領域と統合失調症の認知機能障害との関連解析
第36回日本生物学的精神医学会・第57回日本神経化学学会大会、奈良、2014年9月29日－10月1日

倉富 剛、齋藤 淳、尾関祐二、渡邊 崇、藤井久彌子、下田和孝、秋山一文
統合失調症患者の認知機能障害とHPS4遺伝子多型の関連解析
第36回日本生物学的精神医学会・第57回日本神経化学学会大会、奈良、2014年9月29日－10月1日

青木顕子、林 有希、石黒 慎、渡邊 崇、下田和孝
日本人におけるセロトニン神経系とノルアドレナリン神経系遺伝子多型のパニック障害への影響
第36回日本生物学的精神医学会・第57回日本神経化学学会大会、奈良、2014年9月29日－10月1日

佐伯吉規、星野奈月、中山博文、山田健志、尾関祐二、下田和孝、向山雄人
がん緩和領域におけるmirtazapine投与量に関する因子分析
第27回日本サイコオンコロジー学会、東京、2014年10月3日－4日

萩野谷真人、室井秀太、室井尚武
リスペリドンからペロスピロンへの置換で血中プロラクチン値が正常化した破瓜型統合失調症の一例
第3回日本精神科医学会学術大会、名古屋、2014年10月9－10日

岡安寛明、尾関祐二、門脇太郎、舩越 慶、平田幸一、下田和孝
解離性障害とみなされたBickerstaff脳幹脳炎の1例
第102回東京精神医学会、東京、2014年11月8日

大曾根 彰、下田和孝
認知症診断・経過におけるcognitive reserve（認知予備能）の縦断的研究
第34回日本精神科診断学会、松山、2014年11月13－14日

林 有希、青木顕子、石黒 慎、渡邊 崇、下田和孝
CYP2B6, CYP2D6遺伝子多型がmirtazapine光学異性体の代謝に与える影響
第24回日本臨床精神神経薬理学会 第44回日本神経精神薬理学会、名古屋、2014年11月20日－22日

岡安寛明、尾関祐二、藤井久彌子、高野有美子、篠崎隆央、下田和孝
実臨床場面における気分障害患者に対する治療薬とQT dispersion, Tp-e, QRS間隔の検討
第24回日本臨床精神神経薬理学会 第44回日本神経精神薬理学会、名古屋、2014年11月20日－22日

長谷川千絵、権守 隆、小池真美、藤平尚弘、濱崎洋一郎、旗持 淳、下田和孝
ラモトリギンとレベチラセタム使用中にStevens-Johnson症候群を呈したてんかんの1例
第27回日本総合病院精神医学会、つくば、2014年11月28日－29日

佐伯吉規、中山博文、星野奈月、安井玲子、山田健志、下田和孝、向山雄人
緩和領域におけるquetiapine投与量を決定する因子に関する検討
第27回日本総合病院精神医学会、つくば、2014年11月28日－29日

北原亜加利、石川高明、石川和由、磯 幸博、下田和孝
トラマドール/アセトアミノフェン配合錠投与後に急性一過性精神病状態を生じた一症例
第27回日本総合病院精神医学会、つくば、2014年11月28日－29日

北原亜加利、斎木美佳、石川高明、阿部英行、釜井隆男、楫 靖、下田和孝
種々の精神症状を認めた前立腺癌頭蓋骨転移の一症例
第27回日本総合病院精神医学会、つくば、2014年11月28日－29日

萩野谷真人、室井秀太、室井尚武
パリペリドンが有効であった成人トウレット障害の1例
第27回日本総合病院精神医学会、つくば、2014年11月28日－29日

萩野谷真人、室井秀太、室井尚武
緩和領域におけるquetiapine投与量を決定する因子に関する検討
第27回日本総合病院精神医学会、つくば、2014年11月28日－29日

渡邊 崇、林 有希、青木顕子、石黒 慎、井上義政、下田和孝
CYP2D6, CYP2B6遺伝子多型がmirtazapine光学異性体の代謝に与える影響
第35回日本臨床薬理学会、松山、2014年12月4日－6日

岡安寛明、尾関祐二、藤井久彌子、高野有美子、篠崎隆央、下田和孝
気分障害患者に対する向精神薬治療とQT dispersion, Tp-e, QRS間隔との関連の検討
第35回日本臨床薬理学会、松山、2014年12月4日－6日

<その他の講演>

下田和孝

精神科臨床で遭遇する薬物相互作用

第47回柏崎臨床精神医学研究会、柏崎、2014年1月20日

下田和孝

精神科臨床でみられる薬物相互作用

鹿沼病院リハビリテーションセンター改築記念講演会、鹿沼、2014年2月6日

下田和孝

うつ病の診断と対応

第12回栃木県リハビリテーション談話会、宇都宮、2014年3月13日

下田和孝

ランチョンセミナー ひとりひとりが同じじゃない –薬理遺伝学とは–
第3回日本精神科医学会学術大会、名古屋、2014年10月9日–10日

下田和孝

抗うつ薬の適正使用について

第11回セロトニン関連障害研究会、那覇、2014年10月26日

編集後記

今回初めて編集作業に参加させていただきました。アドバイスをしてくださったF先生、編集作業を共にご担当頂いたS先生、お疲れ様でした。また、ご多忙の中、読み応えのある記事をご寄稿いただいた同門会の諸先生方にはご協力いただきありがとうございます。

文責：M.S.

今年度は学内学外ともに人の動きも多く皆様大変ご多忙にお過ごしだったと思います。ご寄稿いただいた先生方にはそのご多忙の中、貴重な時間を割いて原稿を執筆していただき、感謝の念に堪えません。今号に於いても多数の先生に、ためになるお話から面白い逸話までおうかがいできたかと思います。

編集は年始にまでかかり、スケジュールも押してしまいましたが、こうしてお届けすることができました。

文責：T.S.

前々号、前号ではメインで編集を担当させて頂き、今号では校正を担当させて頂きました。メインで編集をご担当して頂きましたS先生、S先生、おつとめ御苦労様です。

本号発刊に際し、ご多忙のなかご寄稿いただいた皆様方へ厚く御礼申し上げます。

文責：A.F.

獨協医科大学精神神経医学教室 同門会誌 第7号

	平成28年1月15日発行
編集発行人	獨協医科大学精神神経医学教室同門会
発行所	獨協医科大学精神神経医学教室同門会 獨協医科大学精神神経医学教室内 栃木県下都賀郡壬生町北小林880番地 TEL 0282-86-1111（代表）
印刷所	㈱松井ピ・テ・オ・印刷 栃木県宇都宮市陽東5丁目9番21号 TEL 028-662-2511

まだないくすりを
創るしごと。

世界には、まだ治せない病気があります。

世界には、まだ治せない病気とたたかう人たちがいます。

明日を変える一錠を創る。

アステラスの、しごとです。



明日は変えられる。

 **astellas**
Leading Light for Life
アステラス製薬

www.astellas.com/jp/



持続性抗精神病薬

劇薬、処方箋医薬品

注意－医師等の処方箋により使用すること

エビリファイ 持続性水懸筋注用
300mg・400mg
® 300mg シリンジ・400mg シリンジ

ABILIFY® prolonged release aqueous suspension for IM injection

〈アリピプラゾール水和物持続性注射剤〉薬価基準収載

新発売

◇効能・効果、用法・用量、警告・禁忌を含む使用上の注意、効能・効果に関連する使用上の注意及び用法・用量に関連する使用上の注意等は、添付文書をご参照ください。



製造販売元
大塚製薬株式会社
東京都千代田区神田司町2-9

資料請求先
大塚製薬株式会社 医薬情報センター
〒108-8242 東京都港区港南2-16-4 品川グランドセントラルタワー

〈'15.05作成〉



アルツハイマー型認知症治療剤

薬価基準収載

リバスタッチ[®]パッチ 4.5mg・9mg
13.5mg・18mg

リバスチグミン経皮吸収型製剤

Rivastigmine transdermal patch

劇薬、処方箋医薬品^注

注)注意－医師等の処方箋により使用すること

●効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等、
詳細は製品添付文書をご参照ください。

資料請求先



小野薬品工業株式会社

〒541-8564 大阪市中央区久太郎町1丁目8番2号

2015年12月作成



抗てんかん剤／双極性障害治療薬 薬価基準収載

劇薬 処方せん医薬品（注意－医師等の処方せんにより使用すること）

ラミクタール[®]錠 25mg
100mg

Lamictal[®] Tablets ラモトリギン錠

※「効能・効果」、「効能・効果に関連する使用上の注意」、「用法・用量」、「用法・用量に関連する使用上の注意」、「警告・禁忌を含む使用上の注意」等につきましては、製品添付文書をご参照ください。

製造販売元 【資料請求・問い合わせ先】

グラクソ・スミスクライン株式会社
〒151-8566 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-6-15 GSKビル

TEL : 0120-561-007 (9:00～18:00/土日祝日及び当社休業日を除く)
FAX : 0120-561-047 (24時間受付)
<http://www.glaxosmithkline.co.jp>

2014年11月作成



速やかな崩壊性と強度を併せもつ メモリー[®]OD錠

【禁忌】(次の患者には投与しないこと)
本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

【効能・効果】

中等度及び高度アルツハイマー型認知症における認知症状の進行抑制

【効能・効果に関連する使用上の注意】

1. アルツハイマー型認知症と診断された患者にのみ使用すること。
2. 本剤がアルツハイマー型認知症の病態そのものの進行を抑制するという成績は得られていない。
3. アルツハイマー型認知症以外の認知症疾患において本剤の有効性は確認されていない。

【用法・用量】

通常、成人にはメマンチン塩酸塩として1日1回5mgから開始し、1週間に5mgずつ増量し、維持量として1日1回20mgを経口投与する。

【用法・用量に関連する使用上の注意】

1. 1日1回5mgからの漸増投与は、副作用の発現を抑える目的であるので、維持量まで増量すること。
2. 高度の腎機能障害(クレアチニンクリアランス値:30mL/min未満)のある患者には、患者の状態を観察しながら慎重に投与し、維持量は1日1回10mgとすること(「慎重投与」及び「薬物動態」の項参照)。
3. 医療従事者、家族等の管理の下で投与すること。
4. OD錠は口腔内で速やかに崩壊するが、口腔粘膜からの吸収により効果発現を期待する薬剤ではないため、崩壊後は唾液又は水で飲み込むこと。

【使用上の注意】

1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)

- (1) てんかん又は痙攣の既往のある患者[発作を誘発又は悪化させることがある。]
- (2) 腎機能障害のある患者[本剤は腎排泄型の薬剤であり、腎機能障害のある患者では排泄が遅延する(「用法・用量」に関連する使用上の注意及び「薬物動態」の項参照)。]
- (3) 尿pHを上昇させる因子(尿細管性アシドーシス、重症の尿路感染等)を有する患者[尿のアルカリ化により本剤の尿中排泄率が低下し、本剤の血中濃度が上昇するおそれがある。]
- (4) 高度の肝機能障害のある患者[使用経験がなく、安全性が確立していない。]

2. 重要な基本的注意

- (1) 投与開始初期においてめまい、傾眠が認められることがあるので、患者の状態を注

意深く観察し、異常が認められた場合は、投与を中止するなど適切な処置を行うこと。また、これらの症状により転倒等を伴うことがあるため、十分に注意すること。

- (2) 通常、中等度及び高度アルツハイマー型認知症では、自動車の運転等危険を伴う機械の操作能力が低下することがある。また、本剤により、めまい、傾眠等があらわれることがあるので、本剤投与中の患者には自動車の運転等危険を伴う機械の操作に従事させないように注意すること。
- (3) 他の認知症疾患との鑑別診断に留意すること。
- (4) 本剤投与により効果が認められない場合、漫然と投与しないこと。

3. 相互作用(併用注意(併用に注意すること))

ドパミン作動薬:レボドパ等 ヒドロクロロチアジド 腎尿細管分泌(カチオン輸送系)により排泄される薬剤:シメチジン等 尿アルカリ化を起こす薬剤:アセタゾラミド等
NMDA受容体拮抗作用を有する薬剤:アマンタジン塩酸塩、デキストロメトランファン臭化水素酸塩水和物等

4. 副作用

国内におけるメモリー錠承認時までの臨床試験において、1,115例中408例(36.6%)に副作用が認められた。主な副作用は、めまい4.7%(52例)、便秘3.1%(35例)、体重減少2.2%(24例)、頭痛2.1%(23例)等であった。(承認時)

(1) 重大な副作用

- 1) 痙攣(0.3%):痙攣があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。
- 2) 失神(頻度不明[※]):失神、意識消失があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。
- 3) 精神症状(激越:0.2%、攻撃性:0.1%、妄想:0.1%、幻覚、錯乱、せん妄:頻度不明[※]):精神症状(激越、幻覚、錯乱等)があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。
- 4) 肝機能障害(頻度不明[※])、黄疸(頻度不明[※]):AST(GOT)、ALT(GPT)、ALP、ビリルビン等の上昇を伴う肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
- 5) 横紋筋融解症(頻度不明[※]):横紋筋融解症があらわれることがあるので、観察を十分に行い、筋肉痛、脱力感、CK(CPK)上昇、血中及び尿中ミオグロビン上昇等があらわれた場合には、投与を中止し、適切な処置を行うこと。また、横紋筋融解症による急性腎不全の発症に注意すること。

注)自発報告又は海外において認められている副作用のため頻度不明。

●その他の使用上の注意等は製品添付文書をご覧ください。



NMDA受容体拮抗 アルツハイマー型認知症治療剤

薬価基準収載

メモリー[®]錠 5mg 10mg 20mg • OD錠 5mg 10mg 20mg

劇薬、処方箋医薬品:注意一医師等の処方箋により使用すること

一般名/メマンチン塩酸塩



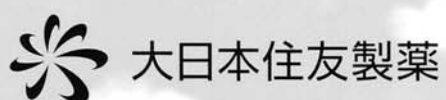
製造販売元(資料請求先)

第一三共株式会社

東京都中央区日本橋本町3-5-1

提携

メルツ ファーマシューティカルズ



大日本住友製薬



抗精神病剤——薬価基準収載
劇薬・処方せん医薬品（注意—医師等の処方せんにより使用すること）

ロナセン[®] 錠2mg・4mg・8mg
散2%
LONASEN[®] プロナンセリン製剤——

●「効能・効果」、「用法・用量」、「禁忌を含む使用上の注意」、「用法・用量に
関連する使用上の注意」等につきましては添付文書をご参照ください。

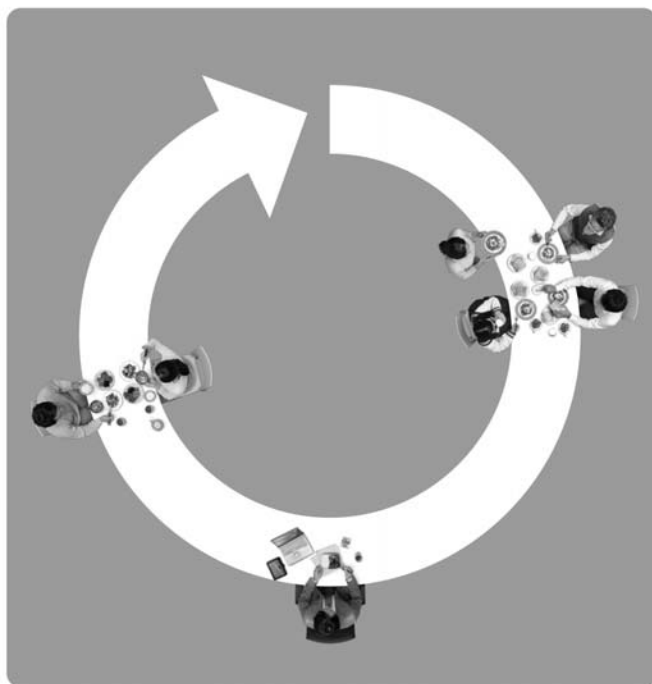
製造販売元（資料請求先）

大日本住友製薬株式会社
〒541-0045 大阪市中央区道修町 2-6-8

〈製品に関するお問い合わせ先〉

くすり情報センター
TEL 0120-034-389
受付時間／月～金 9:00～18:30（祝・祭日を除く）
【医療情報サイト】<http://ds-pharma.jp/>

2011.12作成



選択的DPP-4阻害剤—2型糖尿病治療剤— 薬価基準収載

テネリア錠20mg

TENELIA® Tablets 20mg (テネリグリプチン臭化水素酸塩水和物錠)

処方箋医薬品 (注意—医師等の処方箋により使用すること)

効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については添付文書をご参照ください。



製造販売元(資料請求先)
田辺三菱製薬株式会社
大阪府中央区道修町3-2-10



販売元(資料請求先)
第一三共株式会社
東京都中央区日本橋本町3-5-1

2015年3月作成



おだやかに、すこやかに

虚弱な体質で神経がたかぶるものの次の諸症

神経症、不眠症に



ヨク カン サン
ツムラ抑肝散

エキス顆粒(医療用)

(薬価基準収載)

■効能又は効果、用法及び用量、使用上の注意等は、製品添付文書をご参照下さい。



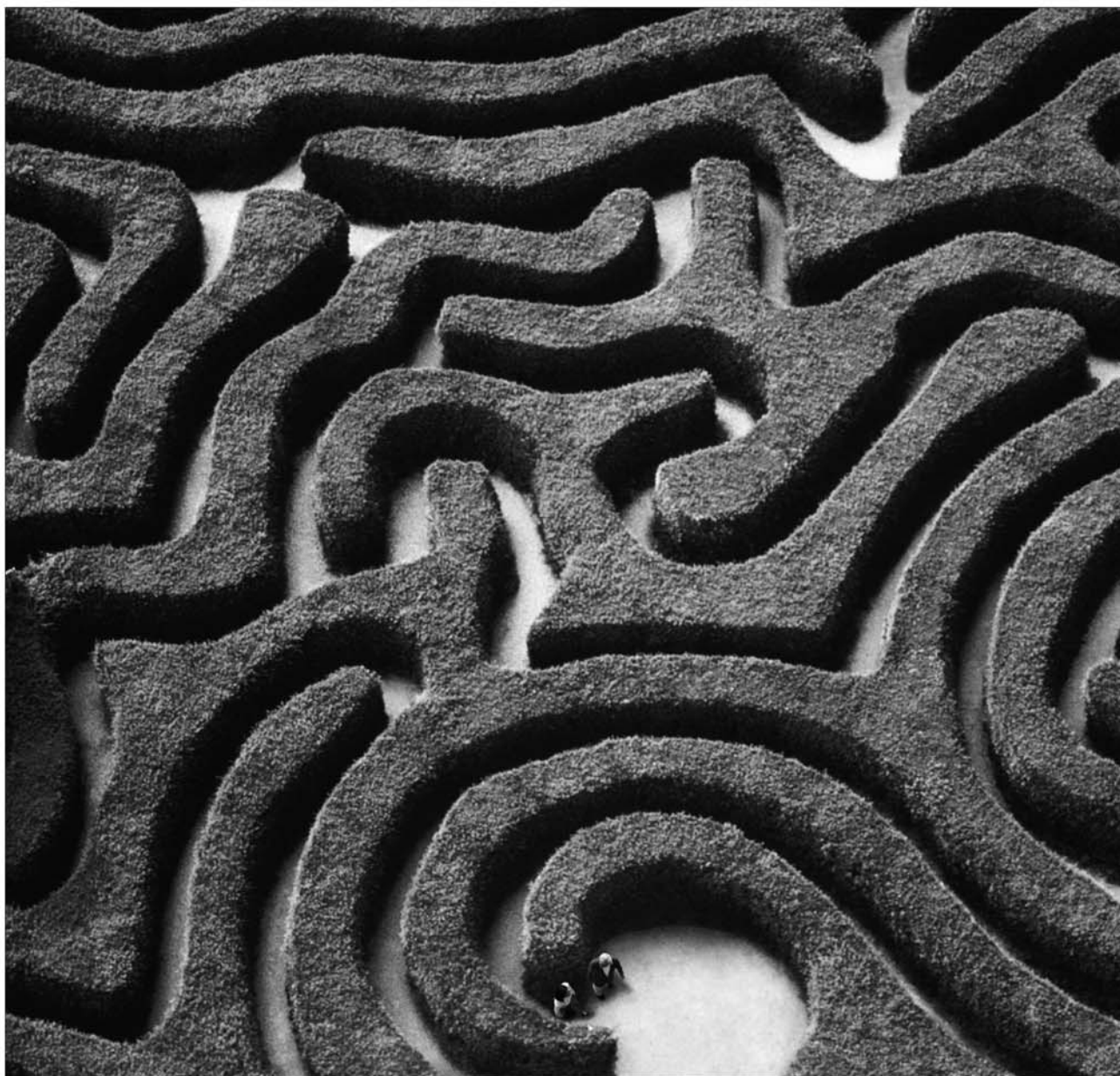
株式会社**ツムラ**

<http://www.tsumura.co.jp/>

●資料請求・お問い合わせは弊社MR、またはお客様相談窓口まで。Tel.0120-329-970

(2015年3月制作)

■使用上の注意等の改訂には十分ご留意下さい。 NQ-0541 ㊞



セロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害剤

薬価基準収載

サインバルタ® カプセル20mg
カプセル30mg

Cymbalta® デュロキセチン塩酸塩カプセル

劇薬、処方箋医薬品^{※1}

注1) 注意-医師等の処方箋により使用すること

「効能・効果」、「効能・効果に関連する使用上の注意」、「用法・用量」、
「用法・用量に関連する使用上の注意」、「禁忌」、「使用上の注意」等
については添付文書等をご参照下さい。

©: 米国イーライリリー・アンド・カンパニー登録商標

販売(資料請求先)

日本イーライリリー株式会社

〒651-0086 神戸市中央区磯上通7丁目1番5号

Lilly Answers

リリーアンサーズ
日本イーライリリー医薬情報問合せ窓口
www.lillyanswers.jp

医療関係者向け **0120-360-605^{※1}**

受付時間: 月曜日～金曜日8:45～17:30^{※2}

※1 通話料は無料です。携帯電話、PHSからご利用いただけます。

※2 祝祭日及び当社休日を除きます。

CYM-A049 (R2) 2014年11月作成



セロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害剤(SNRI) 薬価基準収載

イフェクサー[®] SR カプセル 37.5 mg・75 mg

EFFEXOR[®] SR CAPSULES

ベンラファキシン塩酸塩徐放性カプセル

注意—医師等の処方箋により使用すること

劇薬 処方箋医薬品

新発売

●効能・効果、用法・用量、禁忌、使用上の注意等については、添付文書をご参照ください。

製造販売

ファイザー株式会社

〒151-8589 東京都渋谷区代々木3-22-7

資料請求先：製品情報センター

2015年12月作成
EFX72F022A

明日をもっとすやかに

meiji



ノルアドレナリン・セロトニン作動性抗うつ剤
劇薬、処方せん医薬品^{注)}

薬価基準収載

リフレックス[®]錠15mg

REFLEX[®] TABLETS 15mg

ミルタザピン錠

注) 注意—医師等の処方せんにより使用すること

※「効能・効果」、「用法・用量」、「効能・効果に関連する使用上の注意」、「用法・用量に関連する使用上の注意」、「禁忌を含む使用上の注意」等、詳細は製品添付文書をご参照ください。

製造販売元

Meiji Seika ファルマ株式会社

東京都中央区京橋 2-4-16

<http://www.meiji-seika-pharma.co.jp/>

〈資料請求先〉

Meiji Seika ファルマ株式会社 くすり相談室

〒104-8002 東京都中央区京橋 2-4-16

電話(0120)093-396、(03)3273-3539

作成：2013.4



オレキシン受容体拮抗薬-不眠症治療薬-

ベルソムラ[®] 錠 15mg 20mg

スボレキサント錠 Belsomra.

習慣性医薬品 (注意-習慣性あり)
処方箋医薬品 (注意-医師等の処方箋により使用すること)

薬価基準収載

効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等の詳細につきましては添付文書をご参照ください。

製造販売元 [資料請求先]
MSD 株式会社
〒102-8667 東京都千代田区九段北1-13-12 北の丸スクエア
<http://www.msd.co.jp/>

BEL15AD090-0720



持効性抗精神病剤 劇薬 処方箋医薬品*

ゼプリオン[®] 水懸筋注 **25mg 50mg 75mg 100mg 150mg シリンジ**
XEPLION[®] Aqueous Suspension for IM Injection

バリペリドンバルミチン酸エステル持効性懸濁注射液

薬価基準収載

*注意—医師等の処方箋により使用すること

※効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意は、製品添付文書をご参照ください。

製造販売元（資料請求先）
ヤンセンファーマ株式会社
 〒101-0065 東京都千代田区西神田3-5-2
 URL: <http://www.janssen.co.jp>
 医薬品情報サイト: <http://www.janssenpro.jp>



選択的セロトニン再取り込み阻害剤(SSRI) 薬価基準収載
創薬、処方箋医薬品^{注)}

レクサプロ®錠 10mg
LEXAPRO® Tab. 10mg エスシタロプラムシュウ酸塩
・フィルムコーティング錠

注) 注意—医師等の処方箋により使用すること

※「効能・効果」、「用法・用量」、「禁忌を含む使用上の注意」等の詳細は添付文書をご参照ください。



製造販売元〈資料請求先〉
持田製薬株式会社
東京都新宿区四谷1丁目7番地
TEL 0120-189-522 (くすり相談窓口)



販売〈資料請求先〉
田辺三菱製薬株式会社
大阪市中央区道修町3-2-10
TEL 0120-753-280 (くすり相談センター) 〒541-8505



プロモーション提携
吉富薬品株式会社
大阪市中央区道修町3-2-10

提携



デンマーク



2015年11月作成 (N9)

